

## I. 一般目標 (General Instructional Objective)

将来どの医療分野を専門にする上でも臨床医の素養として不可欠となる急変時の対応を、麻酔管理に必要な知識、技術を通じて理解し、習得する。

## II. 行動目標 (Specific Behavioral Objectives)

1. 臨床医として呼吸・循環・代謝の急変動に落ち着いて対応できる知識と技術を身につける。

① 基本的全身麻酔管理法が理解できる。

② マスク換気、気管挿管ができる。

③ 生体諸機能(呼吸・循環・代謝)の術中評価、管理ができる。

④ 心血管作動薬、筋弛緩薬を適切に使用できる。

⑤ 鎮静法を安全に行うことができる。

⑥ 術後疼痛対策ができる。

⑦ 医療ガスを理解し、安全に使用できる。

### 2. 研修内容

① 研修期間中は研修医に対し日本麻酔学会専門医(指導医)が、麻酔の導入から術中管理、麻酔からの覚醒までの実技指導にあたる。

② 麻酔管理時の諸問題については、土曜日(1回/月)に開かれる症例検討会での報告、討議に加わる。

③ 人工呼吸器取扱セミナー、救急蘇生セミナー等に参加する。

## III. 方略 (Learning Strategies)

病棟・外来でのトレーニング、学会参加(スライド作製、発表、症例報告など)、カンファレンスなど

## IV. 経験できる疾患・手術など

手術適応となった外科系診療科の対象疾患に関する知識、診断、治療法を術前評価および術前診察を通じて確認し、その手術に対する的確な麻酔方法を学び経験する。

麻酔法に関する知識は医師としての基本的素養である基礎医学(特に呼吸循環生理学、薬理学)の概念が必須であり、麻酔管理を通じてその知識を再確認できる。

また周術期手技は、将来どんな診療科を専攻する上でも習得すべき蘇生技術の礎となるものであり、研修期間中に正しい点滴確保、気道および呼吸循環管理の基本を習得する。

## V. 評価 (Evaluation)

退院サマリー、手術記事、症例レポート・minimumEPOCによる自己評価・指導医評価。指導医・看護師などによる形成的評価。

## VI. 指導者と研修施設

1. 診療部長 平木 照之

2. 指導責任者 原 将人

3. 指導医 原 将人、津田 勝哉

4. 研修施設 久留米大学病院、大牟田市立病院など

## VII. 週間予定

1. 基本的に月曜から金曜まで、定例手術および緊急手術の手術麻酔管理を行う。

2. 抄読会(毎週)に参加する。

3. 研修中は、麻酔科専門医と共に大学当直を行う(4~5回/月)。

\*研修協力病院で研修の場合は各々の研修病院の週間予定に従う。

尚、1年目、2年目の麻酔科研修期間は厚生労働省が認可する麻酔科標榜医(認定医)の履修期間2年に算定される。

